

本時の研究主題	生徒の主体的な学習活動を促す指導と評価の工夫
---------	------------------------

1 題材名 印を刻む 日本 美の伝統②～篆刻～

2 目標

- 石材の表現方法の特性や用具から制作順序などを主体的に考え、表現しようとする。
- 日本画の落款から、目的や機能の調和のとれた美しさ、つくり手の意図や願いなどに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとする。(美術への関心・意欲・態度)
- 自分の思いなどからくる造形的な美しさや使いやすさなどの機能を、大きさの制限された石材の特性を生かして総合的に考え、形にこだわった表現の構想を練る。(発想や構想の能力)
- 石材の表現方法の特性や用具から制作の順序などを総合的に考え、安全に留意し、見通しをもって表現する。(創造的な技能)
- 日本画や互いの作品から、日本文化のよさや目的と機能の調和のとれた美しさ、つくり手の意図や願いを感じ取り、形の視点から自分の価値意識をもって味わう。(鑑賞の能力)

3 指導に当たって

(1) 題材観

学習指導要領の改訂に伴い、目標においては「美術文化についての理解を深める」ことが加わり、従来の美術を愛好する心情と感性及び美術の基礎的な能力の育成とともに、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深めさせ、豊かな情操を養うことが重視されている。

本題材は、1学期に学習した「水墨画」と関連付けて設定した。自分の思いを表現した作品に自分の証として残す日本画の落款に着目させ、日本の美術文化のよさを味わわせるとともに、限られた大きさの中に機能と美しさの調和を感じ取らせる題材である。また、本題材で使用する材料や用具は生徒が初めて使用するものが多いことに加え、可塑性のない石材は、完成までの見通しをもって制作の順序を総合的に判断していくことが必要となる。自分の表現したい思いと「印」としての機能性の調和から、学習活動全般を通して「美しい形、使いやすい形」を〔共通事項〕の視点として題材を設定した。

(2) 生徒の実態

美術の授業における意識調査から、「彫刻」において生徒の苦手意識と、身に付けたいと感じている力に若干の差があることが分かる。また、他の選択肢よりも「発想・構想」について回答していることが多く、重点的な指導・支援の必要性があると考えられる。特に、それらの「力を身に付けるために必要なもの」や授業で「うれしい、楽しいと感じるとき」の回答に教師からの支援や励まし、それによって技術が向上したり作品が完成したりする喜びについての結果が多いことから、より一層の指導と評価の工夫改善をしなければならないことが分かった。

本題材における実態調査からは、日本の美術文化について触れる機会を多く設定する必要があると考えられる。また、用具についてはあまり使用したことがないものへの不安が大きく、授業の中で安全指導と併せて解消していきたい。

アンケート結果 (男子19人, 女子18人 計37人調査)

〈美術の授業における意識調査〉

○美術の授業で、「あなたが苦手だな」と感じる力はどれですか？ (複数回答可)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ・絵を描いたり、色を塗ったりする力 20人 | ・木を彫ったり、粘土で形づくったりする力 14人 |
| ・アイデアを出したり、イメージしたりする力 20人 | ・作品を見て考えたり、感想をまとめたりする力 16人 |

○美術の授業で、あなたがこれから身に付けたい力はどれですか？ (複数回答可)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ・絵を描いたり、色を塗ったりする力 16人 | ・木を彫ったり、粘土で形づくったりする力 18人 |
| ・アイデアを出したり、イメージしたりする力 22人 | ・作品を見て考えたり、感想をまとめたりする力 15人 |

○上で選んだ力を身に付けるために、あなた自身が必要だと思うものを教えてください。(複数回答可)

- | | | |
|-------------------|----------------------|-------------------|
| ・先生の説明を聞くこと 21人 | ・先生の実演を見ること 23人 | ・優秀な参考作品を見ること 14人 |
| ・友人同士で作品を見ること 22人 | ・事前にいろいろな材料で試すこと 20人 | ・友人同士で話し合うこと 12人 |
| ・分かりやすいプリント 8人 | ・十分な作業時間 25人 | ・使いやすい道具 11人 |
| ・学力 4人 | ・技術や才能 17人 | ・経験 6人 |
| ・根気(根性) 12人 | ・やる気(意欲) 23人 | ・その他 1人 |

○美術の授業で、あなたがうれしい、または楽しいと感じるのはどんなときですか？ (複数回答可)

- | | | |
|--------------------|--------------------------------------|-----------------|
| ・納得のいく作品ができたとき 25人 | ・作品が完成したとき 28人 | ・先生にほめられたとき 27人 |
| ・友人にほめられたとき 14人 | ・できなかったこと(分からなかったこと)ができた(分かった)とき 26人 | |

- ・友人と協力できたとき 5人
- ・友人（作品）のよいところを見付けられたとき 3人
- ・友人と意見交換できたとき 6人

〈本題材における生徒の実態調査〉

- 日本の伝統工芸に興味がありますか？ある場合は何に興味があるのか、その内容を、ない場合は理由を教えてください。また、分からない場合は、何が分からないのか選んでください。
 - ・ある 8人 内容の内訳 和室や畳とか好き、かっこいい、落ち着く、いろいろ知りたい
 - ・ない 7人 理由の内訳 どんなものがあるか分からないから、考えたことがない
 - ・分からない……伝統工芸についてよく分からない 22人 ・自分の気持ちがよく分からない 0人
- 下に示すものは篆刻の授業で使う用具や材料です。苦手だったり、使うのが不安だったりするものがあったら教えてください。(複数回答可)
 - ・印刀 24人 ・のこぎり 31人 ・紙ヤスリ 0人 ・ヤスリ 15人 ・カーボン紙 7人
 - ・トレーシングペーパー 2人
- 普通の授業で、友人のよいところを伝えていますか？
 - ・伝えている。 11人 ・伝えていない。 2人 ・伝えたくない。 1人
 - ・なかなかできないけど、伝えたいと思う。 23人

(3) 指導観

生徒の主体的活動を促すため、生徒が課題や目的意識に応じて必要な情報を選択し、学習に取り組めるように、制作手順や使用する用具ごとのコーナー、選べる学習カードの設置など学習環境を整える。また、「なぜ～するのか」、「～のためにはどうすることが必要か」など疑問を投げかけることで、主体的に思考力・判断力を働かせ、生徒自らが完成までの見通しと制作手順の理由付けを意識できるようにしたい。題材の目標と生徒の実態から、生徒一人一人への指導の充実を図るために自己評価カードを活用し、一人一人の実態を把握しながら材料や用具への不安の解消に努め、生徒の「分かる・できる」場面を増やしていきたいと考える。

4 指導計画（12時間扱い）

〔共通事項〕 ; 形

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 の 規 準	観 点			
				関	発	技	鑑
1	1	篆刻の制作手順について知る。 印面・持ち手のアイデアスケッチをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篆刻について知り、石材の表現方法の特性や用具から制作順序などを主体的に捉えようとしている。〈自己評価カード・観察・対話〉 ・ 造形的な美しさや使いやすさなどの機能を、大きさの制限された石材を生かして考え、形にこだわった表現の構想を練っている。〈アイデアスケッチ・観察・対話〉 	○	◎		
2	0.5	石に文字を転写する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 彫りを意識しながら美しく丁寧に転写している。〈作品・観察〉 			○	
	1.5	印面を彫る。(試し押し)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石材の表現方法の特性や用具から制作順序などを主体的に考え、表現しようとしている。〈学習カード・観察・対話〉 	○			
	1 本時	持ち手を彫る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石材の表現方法の特性や用具から制作の順序などを総合的に考え、印刀やのこぎりなど安全に留意し、形にこだわって表現している。〈作品・学習カード・観察・対話〉 	○		◎	
	8	磨く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成までの見通しをもって、最後まで丁寧に美しい作品づくりに取り組もうとしている。〈作品・自己評価カード・観察・対話〉 	◎		○	
3	1	日本画と友人の作品を鑑賞し気付いたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画の落款から、目的や機能の調和のとれた美しさ、つくり手の意図や願いなどに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。〈自己評価カード・観察・対話〉 ・ 日本画や互いの作品を、形についての視点から自分の価値意識をもって味わっている。〈自己評価カード・観察・対話〉 	○			◎

5 本時の指導

(1) 目 標

- 石材の表現方法の特性や用具から制作順序などを主体的に考え、表現しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 石材の表現方法の特性や用具から制作の順序などを総合的に考え、印刀やのこぎりなど安全に留意し、形にこだわって表現する。
(創造的な技能)

(2) 準備・資料

学習カード、自己評価カード、印刀、のこぎり、ヤスリ、新聞紙、印泥、バイス

(3) 展 開

学習活動・内容	☆評価規準を達成するための手立て ・指導上の留意点	評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>こだわりの形を追求しよう。 ～美しい形?使いやれい形? それとも…～</p> </div> <p>2 印面や持ち手を彫り進める。</p> <p>① 印面を彫る。 ② 試し押しで確認する。 ③ 持ち手のデザインを下描きする。 ④ デザインに応じた彫り方を調べ、順序よく彫る。</p> <p style="text-align: center;">〈美術室の学習環境図〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>黒板(制作手順確認) 作品カード</p> <p>★ 試し押しコーナー 先生ヘルプコーナー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 100px;"></div> </div> <p style="text-align: center;">★ のこぎりコーナー</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 50px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 50px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 50px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 50px;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 10px auto;"></div> </div>	<p>・ 本時の学習課題を確認し、各自が立てた目標を意識して活動に向かわせることで、生徒の主体的な活動を促す。</p> <p>☆ 本時の目標が立てられない生徒には、どこまで制作を進めたいか、具体的な制作順序から考えさせる。その上で、どんな作品につくり上げたいか、自己イメージをもたせる。</p> <p>・ 制作に入る前に、用具の安全な使用について確認する。</p> <p>・ 印面から持ち手に進む生徒対象に、印面からデザインまでは石材の柔らかい特質上、1.5cm以上間隔を取ることを伝えておく。</p> <p>・ 左図の★印には、制作の方法や注意についてまとめた学習カードを設置しておく。特に「のこぎりコーナー」には持ち手のデザインによって、生徒が自ら選択できるように3種類のカードを用意しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈美術への関心・意欲・態度〉</p> <p>石材の表現方法の特性や用具から制作順序などを主体的に考え、表現しようとしている。 (自己評価カード・観察・対話)</p> </div> <p>・ 「試し押しコーナー」や「のこぎりコーナー」では、失敗からくる反省点や上手にできた方法など、自分が活動して気付いたことを付箋に記入し、できるだけ友人に伝えられるように声をかける。また、他の友人の付箋を読んで、自分に必要だと思う情報は積極的に活用したり、友人に感謝の言葉かけをしたりするなどの活動ができるように声をかけていく。</p> <p>・ 「試し押しコーナー」では、印面が完成した生徒には付箋に印を押しして掲示させ、相互鑑賞の場としたい。</p> <p>☆ 各制作段階での生徒のつまずきは、前時の自己評価カードから事前に把握しておき、積極的に支援していく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈創造的な技能〉</p> <p>石材の表現方法の特性や用具から制作の順序などを総合的に考え、印刀やのこぎりなど安全に留意し、形にこだわって表現している。 (自己評価カード・観察・対話)</p> </div> <p>☆ 印面の彫りが上手にいかない生徒には、印刀の持ち方やひっかくようにする彫り方を実演してみせる。石材が安定しない生徒には、バイスを使用させ安全に留意する。</p> <p>☆ 試し押しの上手でいかない生徒には、印泥のコンディショニングを確認し、体重を均等にかけて押すことを勧める。それでも失敗してしまう生徒には、教師が実演してみせる。</p> <p>☆ 持ち手を彫っている生徒には、印刀やのこぎりの安全な使用を呼びかけ、常に注意して生徒の活動を観察する。また、持ち手のデザインに応じて、制作の一つ一つの段階を「どうすれば目的の形にできるのか」、「なぜそうするのか」を考え</p>	

3 本時の活動を振り返り、形の視点からまとめる。

- させてから具体的な指示をしていくことで、生徒が見通しをもって制作する素地を養いたい。
- ・ 頑張って作業していた生徒や作品のよいところを積極的にほめ、「分かる・できる」喜びを味わわせることで次時の活動への意欲を高める。
 - ・ 安全に留意して用具を片付けさせる。

6 板書計画

